

希望・勇気・忍耐

第7号 令和4年11月1日 担当：池野 友吏子

【11月（霜月）行事予定】 月訓『読書』

1	火	私学協会表彰式	16	水	
2	水	学年行事（授業なし）	17	木	
3	木	文化の日	18	金	第1回学校説明会・相談会準備 （40分×6限+美化清掃・準備） 計算技術検定
4	金	第2回日本漢字能力検定	19	土	第1回学校説明会・相談会 受験対策講座
5	土		20	日	
6	日	第2回実用英語技能検定（2次）	21	月	学年朝礼
7	月	生徒会役員選挙 ベネッセ総合学力テスト	22	火	
8	火	ベネッセ総合学力テスト・執行部合同会	23	水	勤労感謝の日
9	水		24	木	
10	木		25	金	
11	金		26	土	
12	土	保護者会研修会	27	日	全商ビジネス文書実務検定試験
13	日	全商ビジネス計算実務検定試験	28	月	2学期期末試験①
14	月		29	火	2学期期末試験②
15	火		30	水	2学期期末試験③ ~ 12/2

★考えてみてください。

「みなさんは自分の人生について考えたことはありますか？」

あまり考えたことがないという人もいるかもしれませんね。

質問を変えてみます。

「自分のことは大切ですか？」 一度自分に問いかけてみてください。

「答えはでましたか？」

私自身のことを言えば、私は自分のことが大切です。10年前もそう考えていましたし、自分が高校生だったときも大切だと考えていました。

将来の自分の姿を想像してみてください。1週間後、1か月後、1年後も自分です。自分という存在は決して代わることはありません。その5年後の自分は学生かもしれませんし、一社会人として社会に貢献しているかもしれません。10年後は・・・出生家族から創設家族へと変わる、つまり、自分がパートナーと共に、新しい家庭を築いている人もいるかもしれません。

その頃のみなさんは、自分のことを大切だと思っているのでしょうか・・・。
きっと大切だと思っているはずです。

自分を大切にすることとは一体どういうことなのでしょう・・・。

好きなことだけをして思い通りに振る舞い、自分だけが楽しいと感じたり、周囲のことも考えず自分のことだけを考えて行動することなのでしょう。私にはどれも自己中心的に感じられます。また、人は一人では生きていけません。常に誰かと共に生きています。共生しているからこそ「周囲の人たちに「感謝」できることがある」ということは、とても素敵なことなのではないのでしょうか。そして何かを必死に追求し、努力をして、目標を達成したときに喜びを分かち合ってくれる人が自分たちの周囲にいてくれたのなら、それはとても喜ばしいことです。また、そのような時間を誰かと共有できるということも、人生の中の素敵な時間になるのではないのでしょうか。

このように、自分を大切にするために出来る範囲で何かに挑み、学び、励んだりして想いを共有できる人を増やし、温かい雰囲気を持った人間関係や環境を構築していくことが「自分を大切にすること」につながるのでは・・・と私は考えます。

では、いつ努力をしたらよいのでしょうか。

「現在(いま)」について少し触れたいと思います。今の自分は周囲の人に支えて(助けて)いただきながら、これまでの幾多の経験を繰り返したことによって成立しているのです。ある日突然、現在の「自分」が存在したわけではありません。過去の自分がいくつも重なり合い、積み重なって「現在(いま)」があります。ということは・・・現在の自分のそれが未来にも繋がりと、自分を大切にすることにも繋がります。当たり前ですが、過去に戻りやり直すことも未来に行くことも出来ません。直接努力をぶつけられるのは、常に「現在(いま)」しかないのです。

みなさんは無限の可能性をもっています。しかし、自分自身が前向きにならなくてはその可能性は閉ざされたままです。繰り返しになりますが、「現在(いま)」は未来に繋がっているのです。

私自身は自分の存在が誰かのためになっている。それを目指したいといつも心掛けています。みなさんはどうですか？一度自分を振り返って考えてみてはどうでしょうか。

【読書の習慣】

自分は毎年約 50 冊の本を読んでいます。君たちと同じ高校生の時には全くと言っていいほど本は読みませんでした。本を読むんだったら違うことにエネルギーを使おうと思っていました。

その考えが変わったのは大学に入った時です。自分は文学部史学科国史学専攻に所属し、歴史の勉強を始めましたが、同級生の知識量に圧倒されました。足元にも及ばず恥ずかしかったです。知識を取得するためには読書しかないと思い、片っ端から歴史に関する本を読み漁っていきました。以来、それが習慣となり現在にいたります。

きっかけは人それぞれですが、「本なんか読んではいけません！」なんて叱られることはまずありません。紙の本をべらべらとめくりながら得られない体験を味わうこと。また文字を追うことで想像力を養うこと。年齢を重ねてからでも遅くはないですが、早いに越したことはありません。

もしかしたら一冊の本が人生を変えるかもしれません。そんな本との出会いを！

People don't realize how a man's whole life can be changed by one book.

(柳瀬)